

1981年 大会記録

国際

◇ニュージーランド・ゲームズ=フリースタイル(1月25~28日、ニュージーランド・

カウレス)

▼52kg級 小林利典(大東大) = 2位、▼57kg級 上野宏之(日体大) = 3位、▼62kg級 五位塚悟(大東大) = 3位、▼68kg級 大家岳彦(日体大) = 2位、▼74kg級 岸本茂範(中大) = 3位、▼82kg級 茂木修(日体大) = 4位、▼90kg級 西塚賢一(明大) = 5位、▼100kg以上級 山本邦寿(日体大) = 2位、▼国別対抗得点 = 4位

◇世界ジュニア選手権(7月11~18日、カナダ・バンクーバー)

《フリースタイル》▼48kg級 石川真一(国士舘大) = 優勝、▼52kg級 野口芳孝(国士舘大) = 6位、▼57kg級 西村潔(八戸大) = 二失、▼62kg級 内山正美(日体大) = 三失、▼68kg級 中田薫(国士舘大) = 4位、▼74kg級 樋口直己(日体大) = 2位、▼82kg級 水橋徹(国士舘大) = 二失、▼90kg級 曾根哲郎(法大) = 三失、▼100kg級 本田多聞(茨城・土浦日大高) = 4位、▼100kg以上級 三宅勝(専大) = 二失

《グレコローマン》▼48kg級 高地伸夫(拓大) = 二失、▼52kg級 三宅正徳(日体大) = 3位、▼57kg級 大町孝雄(国士舘大) = 四失、▼62kg級 土井宏治(国士舘大) = 二失、▼68kg級 根本誠次(日体大) = 6位、▼74kg級 福岡浩一(国士舘大) = 二失、▼82kg級 馳浩(専大) = 二失、▼90kg級 堀正治(専大) = 二失、▼100kg級 石森宏一(大体大) = 6位、▼100kg以上級 武田高弘(専大) = 二失

◇ユニバーシアード(7月20~26日、ルーマニア・ブカレスト)

《フリースタイル》▼48kg級 石川利明(栃木・足利工大付高教) = 優勝、▼52kg級 佐藤満(日体大) = 優勝、▼57kg級 富山英明(日大教) = 2位、▼62kg級 五位塚悟(大東大) = 4位、▼68kg級 上村政和(日大) = 三失、▼74kg級 岸本茂範(中大) = 6位、▼82kg級 太田章(東海大研) = 4位

《グレコローマン》▼48kg級 大川秀和(日体大) = 3位、▼52kg級 宮原厚次(自衛隊) = 4位、▼57kg級 水谷一也(日体大) = 5位

◇世界選手権=グレコローマン(8月28~30日、ノルウェー・オスロ)

▼48kg級 佐々木文和(島根県教委) = 3位、▼52kg級 宮原厚次(自衛隊) = 2位、

▼57kg 級 阿佐雄二（自衛隊）＝二失、▼62kg 級 長内清一（三八教育事務所）＝5 位、▼68kg 級 南敏文（滋賀県立体育館）＝三失、▼74kg 級 谷一郎（日体大）＝三失、▼82kg 級 伊沢厚（警視庁）＝三失、▼90kg 級 今村民夫（自衛隊）＝二失、▼100kg 級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）＝三失、▼100kg 以上級 竹中徹（中大）＝二失

◇世界選手権＝フリースタイル（9月11～14日、ユーゴスラビア・スコピエ）

▼48kg 級 入江隆（自衛隊）＝5 位、▼52kg 級 朝倉利夫（国士舘大教）＝優勝、▼57kg 級 富山英明（日大教）＝3 位、▼62kg 級 杉野浩吉（自衛隊）＝4 位、▼68kg 級 上村政和（日大）＝三失、▼74kg 級 田谷久男（自衛隊）＝三失、▼82kg 級 太田章（東海大研）＝三失、▼90kg 級 鈴木光（ユナイテッドスティール）＝三失、▼100kg 級 安藤正哉（日体大）＝二失、▼100kg 以上級 松永清志（和歌山県教委）＝三失

◇アジア・ジュニア選手権＝フリースタイル（10月30日～11月3日、インド・ヒサー

ル）

▼48kg 級 飯塚英明（静岡・修善寺工高）＝6 位、▼52kg 級 角地山豊（青森・光星学院高）＝2 位、▼56kg 級 菅原弘（秋田・秋田商高）＝5 位、▼60kg 級 赤石光生（青森・光星学院高）＝優勝、▼65kg 級 中村勝雄（青森・光星学院高）＝3 位、▼70kg 級 平山宣伸（岡山・岡山日大高）＝6 位、▼75kg 級 倉内康好（青森・光星学院高）＝4 位、▼81kg 級 宮崎達也（群馬・関東学園高）＝6 位、▼87kg 級 呑香龍二（青森・光星学院高）＝5 位、▼87kg 以上級 東政弘（日体大）＝優勝

※フリースタイルのみ

◇アジア選手権＝フリースタイル（12月1～4日、パキスタン・ラホール）

▼48kg 級 入江隆（自衛隊）＝棄権（交通事故）、▼52kg 級 朝倉利夫（国士舘大教）＝優勝、▼57kg 級 滝田達也＝3 位、▼62kg 級 金子博＝2 位、▼68kg 級 上村政和（日大）＝2 位、▼74kg 級 田谷久男（自衛隊）＝棄権（交通事故）、▼82kg 級 太田章（東海大研）＝優勝、▼90kg 級 浅野修＝2 位、▼100kg 級 安藤正哉（日体大）＝4 位、▼100kg 以上級 田端久和＝2 位

※フリースタイルのみ

国内

◇全国高校選抜大会（4月2～3日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院、[2] 茨城・土浦日大、[3] 韓国・全羅北道

《個人戦優勝者》▼48kg 級 小林孝至（茨城・土浦日大）、▼52kg 級 角地山豊（青森・

光星学院)、▼56kg級 養学稔(徳島・池田)、▼60kg級 田村英樹(神奈川・日大藤沢)、▼65kg級 中村勝雄(青森・光星学院)、▼70kg級 平山宣伸(岡山・岡山日大)、▼75kg級 倉内康好(青森・野辺地工)、▼75kg以上級 本田多聞(茨城・土浦日大)

◇西日本学生春季新人戦=フリースタイル(5月3日、大阪・桃山学院大)

《優勝者》▼48kg級 中野雅裕(名城大)、▼52kg級 鍛冶将喜(近大)、▼57kg級 山本仁志(近大)、▼62kg級 諸岡渡(名商大)、▼68kg級 田中正昭(同志社大)、▼74kg級 高橋照彦(名商大)、▼82kg級 泉森一喜(近大)、▼82kg以上級 石森宏一(大体大)

※フリースタイルのみ

◇東日本学生リーグ戦(5月14~16・23日、東京・青少年総合センター、駒沢体育館)

《順位》[1] 日体大(3年連続5度目)、[2] 日大

(A組順位) [1] 日体大、[2] 専大、[3] 中大、[4] 明大、[5] 拓大、[6] 東農大

(B組順位) [1] 日大、[2] 国士大、[3] 大東大、[4] 東洋大、[5] 東海大、[6] 法大

◇世界ジュニア選手権代表選考会(5月29~31日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 石川真一(国士舘大)、▼52kg級 野口芳孝(国士舘大)、▼57kg級 西村潔(八戸大)、▼62kg級 内山正美(日体大)、▼68kg級 中田薫(国士舘大)、▼74kg級 樋口直巳(日体大)、▼82kg級 水橋徹(国士舘大)、▼90kg級 曾根哲郎(法大)、▼100kg級 本田多聞(茨城・土浦日大高)、▼100kg以上級 三宅勝(専大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 高地伸夫(拓大)、▼52kg級 三宅正徳(日体大)、▼57kg級 大町孝雄(国士舘大)、▼62kg級 土井宏治(国士舘大)、▼68kg級 根本誠次(日体大)、▼74kg級 福岡浩一(国士舘大)、▼82kg級 馳浩(専大)、▼90kg級 堀正治(専大)、▼100kg級=出場なし、▼100kg以上級 武田高弘(専大)

◇西日本学生選手権(5月29~31日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 田中一成(桃山学院大)、▼52kg級 内田昭次(徳山大)、▼57kg級 秋山徳久(福岡大)、▼62kg級 小野憲一(近大)、▼68kg級 守田武史(徳山大)、▼74kg級 林三千年(福岡大)、▼82kg級 宮本明宏(徳山大)、▼82kg以上級 南正樹(近大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 田中一成(桃山学院大)、▼52kg級 亀田雅彦(関大)、▼57kg級 北嶋賢一(福岡大)、▼62kg級 井手雅博(福岡大)、▼68kg級 守田武史(徳山大)、▼74kg級 元山勇人(徳山大)、▼82kg級 宮本明宏(徳山大)、▼82kg以上級 木村満彦(同志社大)

◇全日本社会人選手権(6月6～7日、東京・青少年総合センター)

《官公庁対抗優勝》自衛隊、《実業団対抗優勝》ユナイテッド・スティーレル、《クラブ対抗優勝》木口道場、《三部対抗優勝》自衛隊

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 入江隆(自衛隊)、▼52kg級 福山雄二(自衛隊)、▼57kg級 朝倉利夫(国士舘大助)、▼62kg級 杉野浩吉(自衛隊)、▼68kg級 山口勝之(和歌山県協会)、▼74kg級 南正昭(宮崎ク)、▼82kg級 木村年貴(滋賀県体協)、▼90kg級 浅野修(千葉県協会)、▼100kg級 山本博(栃木県協会)、▼100kg以上級 松永清志(和歌山県協会) 山本邦寿(滋賀県体協) = 両者優勝

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木文和(島根県協会)、▼52kg級 宮原厚次(自衛隊)、▼57kg級 朝倉利夫(国士大助)、▼62kg級 阿佐雄二(自衛隊)、▼68kg級 山口勝之(和歌山県教ク)、▼74kg級 南敏文(滋賀県体育館)、▼82kg級 伊沢厚(警視庁)、▼90kg級 向井孝博(自衛隊)、▼100kg級 谷口聖平(木口道場)、▼100kg以上級 松永清志(和歌山ク)

◇東日本学生春季新人戦(6月19～21日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 矢作章(日大)、▼52kg級 堀江薫雄(日体大)、▼57kg級 松浦晋(日体大)、▼62kg級 友藤威(八戸大)、▼68kg級 佐藤卓(早大)、▼74kg級 中田薫(国士舘大)、▼82kg級 福辺雅彦(日体大)、▼90kg級 馳浩(専大)、▼90kg級以上 三宅勝(専大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 矢作章(日大)、▼52kg級 大川秀和(日体大)、▼57kg級 三宅正徳(日体大)、▼62kg級 井岡克哉(法大)、▼68kg級 根本誠次(日体大)、▼74kg級 石毛昭弘(東洋大)、▼82kg級 福辺雅彦(日体大)、▼90kg級 堀正治(専大)、▼90kg級以上 武田高広(専大)

◇西日本学生春季リーグ戦(6月26～28日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1] 徳山大(3季ぶり3度目)、[2] 福岡大、[3] 同志社大、[4] 近大、[5] 大体大、[6] 名古屋商大

◇全日本選手権（7月3～5日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 入江隆（自衛隊）、▼52kg級 朝倉利夫（国士大助）、▼57kg級 富山英明（日大教）、▼62kg級 杉野浩吉（自衛隊）、▼68kg級 上村政和（日大）、▼74kg級 田谷久男（自衛隊）、▼82kg級 太田章（東海大研）、▼90kg級 鈴木光（ユナイテッドステイール）、▼100kg級 安藤正哉（日体大）、▼100kg以上級 松永清志（和歌山県教委）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木文和（島根県協会）、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg級 阿佐雄二（自衛隊）、▼62kg級 長内清一（三八教育事務所）、▼68kg級 南敏文（滋賀県体教）、▼74kg級 谷一郎（日体大）、▼82kg級 伊沢厚（警視庁）、▼90kg級 今村民夫（自衛隊）、▼100kg級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）、▼100kg以上級 竹中徹（中大）

◇インターハイ（8月6～9日、茨城・水戸市民体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・土浦日大、[2] 神奈川・日大藤沢、[3] 青森・光星学院、山形・山形商

《個人戦優勝者》▼48kg級 小林孝至（茨城・土浦日大）、▼52kg級 角地山豊（青森・光星学院）、▼56kg級 菅原弘（秋田・秋田商）、▼60kg級 赤石光生（青森・光星学院）、▼65kg級 中村勝雄（青森・光星学院）、▼70kg級 古橋優（茨城・土浦日大）、▼75kg級 倉内康好（青森・野辺地工）、▼75kg以上級 本田多聞（茨城・土浦日大）

◇全日本学生選手権（8月22～25日、大阪・大阪府立体育会館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 石川真一（国士舘大）、▼52kg級 佐藤満（日体大）、▼57kg級 上野宏之（日体大）、▼62kg級 五位塚悟（大東大）、▼68kg級 上村政和（日大）、▼74kg級 菊地隆（大東大）、▼82kg級 茂木修（日体大）、▼90kg級 富田栄作（専大）、▼90kg級以上 安藤正哉（日体大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 橋本伸幸（明大）、▼52kg級 佐藤満（日体大）、▼57kg級 水谷一也（日体大）、▼62kg級 栄和人（日体大）、▼68kg級 中島光正（大東大）、▼74kg級 樋口直己（日体大）、▼82kg級 東出徹（日体大）、▼90kg級 山本隆（日体大）、▼90kg級以上 石森宏一（大体大）

◇西日本学生秋季新人戦（9月12～13日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 奥田聰（大阪市立大）、▼52kg級 河原公成（近大）、▼57kg級 鍛冶川大禎（大体大）、▼62kg級 福本富雄（大体大）、▼68kg級 吉

田主税 (近大)、▼74kg 級 川口豊隆 (大体大)、▼82kg 級 山口育孝 (大体大)、▼82kg 以上級 石森宏一 (大体大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 奥田聰 (大阪市立大)、▼52kg 級 鍛冶将喜 (近大)、▼57kg 級 山本仁志 (近大)、▼62kg 級 西井篤 (同志社大)、▼68kg 級 田中正昭 (同志社大)、▼74kg 級 川口豊隆 (大体大)、▼82kg 級 泉森一喜 (近大)、▼82kg 以上級 南正樹 (近大)

◇全日本学生王座決定戦 (9月24～25日、東京・駒沢体育館) =決勝成績

日体大○ [6-3] ●国士舘大

※日体大は4年連続5度目の優勝

◇国体 (10月14～17日、滋賀・甲賀町公園体育館、勤労身体障害者体育館)

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg 級 入江隆 (茨城・自衛隊)、▼52kg 級 清水清人 (宮崎・日南高教)、▼57kg 級 上野宏一 (青森・日体大)、▼62kg 級 栄和人 (鹿児島・日体大)、▼68kg 級 上村政和 (鹿児島・日大)、▼74kg 級 南正昭 (宮崎・都城高教)、▼82kg 級 茂木優 (秋田・秋田商高教)、▼90kg 級 鈴木光 (茨城・ユナイテッドスチール)、▼100kg 級 平山進 (滋賀・県体育館)、▼100kg 以上級 山本邦寿 (滋賀・県体育館)

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 佐々木文和 (島根・県庁)、▼52kg 級 宮原厚次 (埼玉・自衛隊)、▼57kg 級 柏木究 (徳島・国府養護教)、▼62kg 級 長内清一 (青森・三八教育事務所)、▼68kg 級 南敏文 (滋賀・県体育館)、▼74kg 級 谷一郎 (徳島・日体大)、▼82kg 級 伊沢厚 (東京・警視庁)、▼90kg 級 今村民夫 (埼玉・自衛隊)、▼100kg 級 藤森安一 (東京・警視庁)、▼100kg 以上級 松永清志 (和歌山・県武道館)

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg 級 小林孝至 (茨城・土浦日大)、▼52kg 級 角地山豊 (青森・光星学院)、▼56kg 級 菅原弘 (秋田・秋田商)、▼60kg 級 赤石光生 (青森・光星学院)、▼65kg 級 中村勝雄 (青森・光星学院)、▼70kg 級 平山宣伸 (岡山・岡山日大)、▼75kg 級 川田利明 (栃木・足利工大付)、▼81kg 級 林久晴 (千葉・八千代松陰)、▼87kg 級 田中浩一 (宮崎・都城商)、▼87kg 以上級 本田多聞 (茨城・土浦日大)

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg 級 兼村一 (沖縄・読谷)、▼52kg 級 黒飛健 (静岡・修善寺工)、▼56kg 級 林康晴 (岐阜・岐阜西工)、▼60kg 級 飛田達也 (茨城・土浦日大)、▼65kg 級 森巧 (徳島・貞光工)、▼70kg 級 糸川長武 (山口・柳井)、▼75kg

級 松井浩幸（新潟・巻農）、▼81kg級 山崎良次（神奈川・湘南）、▼87kg級 和田正（新潟・北越商）、▼87kg以上級 猿田充（秋田・五城目）

◇東日本学生グレコローマン選手権（10月29日、東京・青少年総合センター）=決勝成績

日体大○ [7-2] ●国士舘大

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月27～29日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 徳山大（2季連続4度目）s、[2] 同志社大、[3] 福岡大、[4] 近大、[5] 大体大、[6] 名古屋商大

◇東日本学生秋季新人戦（11月17～19日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 高橋成敏（専大）、▼52kg級 大川秀和（日体大）、▼57kg級 森岡敬志（日体大）、▼62kg級 松浦晋（日体大）、▼68kg級 友藤威（八戸大）、▼74kg級 和久井始（東洋大）、▼82kg級 谷川英樹（専大）、▼90kg級 桜井裕（東洋大）、▼90kg級以上 堀正治（専大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 鈴木博貴（東洋大）、▼52kg級 一色啓雅（専大）、▼57kg級 井上智明（国士舘大）、▼62kg級 土井宏治（国士舘大）、▼68kg級 湯浅誠次（日体大）、▼74kg級 根本誠次（日体大）、▼82kg級 馳浩（専大）、▼90kg級 福辺雅彦（日体大）、▼90kg級以上 大川浩一（日大）

◇全日本大学選手権（12月22～23日、東京・東京体育館）

《優勝者》▼48kg級 石川真一（国士舘大）、▼52kg級 佐藤満（日体大）、▼57kg級 上野宏之（日体大）、▼62kg級 五位塚悟（大東大）、▼68kg級 上村政和（日大）、▼74kg級 樋口直巳（日体大）、▼84kg級 茂木修（日体大）、▼90kg級 富田栄作（専大）、▼90kg以上級 安藤正哉（日体大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（5年連続6度目）、[2] 国士舘大、[3] 東洋大